

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業  
分担研究報告書

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン：「薬物療法抗炎症外用薬」、「心身医学的側面」、「アレルギー（食物）」、「民間療法」に関する解説の作成

研究分担者 大矢幸弘 国立成育医療研究センターアレルギー科 医長  
研究協力者 山本貴和子 国立成育医療研究センターアレルギー科 医師研究員

### 研究要旨

本研究の目的は、アトピー性皮膚炎の診療に携わるさまざまな地域のさまざまな診療科の医師が使い、すべての年齢層の患者の診療に必要な内容や患者や家族などの臨床の場での意思決定の参考に資するために必要な内容を含むアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療の均てん化に資することである。

本ガイドラインでは、クリニカルクエスチョンに対する推奨度の設定に加えて、より詳細な情報を使用者に提供してアトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めるため、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について解説した文章を掲載することにした。

われわれは、「アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス」に関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに解説を作成した。

#### A. 研究目的

アトピー性皮膚炎の診療を均てん化し、国内のすべての地域でより多くの患者が良質な医療を享受できるようにするためには、皮膚科医、小児科医、アレルギー科医、総合診療医等すべての医師や患者が活用できる診療ガイドラインを作成することが望まれる。

本ガイドラインでは、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について解説した文章を掲載することによって、より詳細な情報を使用者に提供し、アトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めることを目的とした。

#### B. 研究方法

アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランスに関して、PubMed や医学中央雑誌などのデータベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、

総説などの情報をもとに、診療上重要な情報について解説文を作成した。作成した文章は、研究班員による議論と推敲を得て、最終版を作成した。

#### C. 研究結果

現時点において、アトピー性皮膚炎の炎症を十分に鎮静するための薬剤で、有効性と安全性が科学的に十分に検討されている薬剤は、ステロイド外用薬とタクロリムス軟膏（topical calcineurin inhibitor; カルシニューリン阻害外用薬）であるとした（添付1）。

また、食物アレルギーに対して、アトピー性皮膚炎患者、特に乳児では、食物アレルギーの関与が認められることがあるが、食物アレルギーの関与が明らかでない小児および成人のアトピー性皮膚炎の治療にアレルギー除去食が

有用であるという示せる根拠が乏しいとした（添付2）。

心理医学的側面については、アトピー性皮膚炎のコントロールが悪いと、二次的に心理的な負荷や異常を生ずるが、そうした患者を心身症として特別視するのではなく、全ての患者に対して心身医学的側面にも留意した包括的な治療を心がけるべきであるとまとめた（添付3）。

民間療法については、いわゆる健康雑誌やインターネット上には多数の民間医療に関連した宣伝記事や情報があふれておりアトピービジネスが問題となっていることを述べ、民間療法に頼った結果、通常の医療に対するアドヒアランスが低下し、症状がさらに悪化する症例が問題となると記載した（添付4）。

#### D. 考察

アトピー性皮膚炎の要因は様々あるが、一概に食物アレルギーがあると決めつけることはできない。また、ステロイド外用薬とタクロリムス軟膏が抗炎症治療薬の中心であり、心理学側面も留意して治療をする必要がある。民間

療法に対する正しい知識と対応となる。

#### E. 結論

「薬物療法抗炎症外用薬」、「アレルギー（食物）」、「心身医学的側面」、「民間療法」を解説する文章を作成した。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

<論文発表>

なし

<学会発表>

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他